

2017年
No.82
9月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION



- 小平国際学生宿舎を探検して
- スペイン語講座
- 世界の料理(インドネシア)

ほか

高尾山ハイキング

7月2日(日)

交流イベントチームの企画のもと、中国、台湾、ベトナム、ウズベキスタン出身者とボランティア等を含む23名で高尾山に出かけました。当日は朝方まで雨が降っていましたが、その後は参加者の晴れ男が味方してくれたようでした。

舗装された一号路は歩きやすいものの、ゆるやかな坂や急な坂が続き、一行は時折休憩しながら登って行きました。とても蒸し暑く、汗が噴き出してきましたが、緑の林の中をお喋りしながら歩くのは、皆楽しそうでした。

ケーブルカーの駅まで登ると、目の前が開けて、展望台から新宿など東京の景色が見渡せます。さらに土産物屋の前を通り過ぎ、しばらく行くと、風格ある浄心門が現れました。薬王院には迫力のある二体の天狗の像が立っており、おみくじなど目を引くものも沢山ありましたが、まずは山頂へ。

「狛犬(こまいぬ)は必ず2頭いて、右の犬は口を開けているんだよ。」「右は『あ』で左は『うん』なのよ。」なんて豆知識も話しながら、初対面の参加者同士もすっかり打ち解けている様子でした。

そして、とうとう山頂到着。「お疲れ様でしたあ!」と互いに声を掛け合い、記念撮影です。すると、誰かが遠くに見える富士山を発見! 私たちの頭上は雲に覆われているのに、まだ雪の残る美しい富士山の周りだけ青空になっていて、遠くにそびえているのです。

思いがけないご褒美に皆盛り上がり、より一層達成感を感じながら、お花見のようにシートを広げて、お弁当を楽しみました。昼食後、薬王院へ戻って解散となりましたが、各々高尾山を満喫した一日になったことでしょう。

小平国際学生宿舎を探検して

取材日：5月24日 水

1. 小平国際学生宿舎とISDAK

近年、来日する留学生は増加の傾向にあり、彼らは未来の国際交流をになう大切な存在です。一橋大学小平分校であった敷地に、2002年に建てられた小平国際学生宿舎は、近隣にもかかわらず、あまり知られていないようです。5月下旬の夕方、ここを訪ねると、ISDAK(イスタック)というロゴ入りのパーカー姿で、一橋大学大学院生の高橋脩さんが迎えてくれました。ISDAKとは、“International Students Dormitory Association of Kodaira”の略称で、入居学生を中心とした寮組織のことです。その構成員は、一橋大学在学の日本人学生・外国人留学生及び東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学の外国人留学生です。この宿舎がISDAKの活動の拠点で、入居者の国籍は、中国、日本、韓国、ベトナム、モンゴルなどアジアを中心として40以上にわたっており、現在、700人位が入居しています。

3. サポート役のRA・CAとは？

ISDAKで外国人をサポートしているのは、寮全体を運営するRA(レジデントアシスタント)、居住フロアをとりまとめるCA(コミュニティーアシスタント)という学生ですが、この方々にもお話を伺いました。RA・CAは、自ら応募した上で、大学の選考で決まります。海外で育ったRA高橋さんのきっかけは、「フランスの大学在学中に交換留学生として来日しISDAKに入寮、慣れない日本での生活の中RA・CAから様々サポー



左からエンクさん、CA北島さん、RA高橋さん

4. 日本で学ぶ若き留学生・ISDAKの寮生活

一橋大学にモンゴルから一年留学しているエンクさんに、ISDAKの寮生活について興味深いお話を聞くことができました。小・中学生時代を日本で過ごした経験を持ち、流暢な日本語を話すエンクさんは、スラリとした高身長で礼儀正しく、笑顔の印象的な好青年です。

寮の食生活は基本自炊ですが、時には寮の仲間が作った料理を皆で囲み、互いの国の文化などの会話を楽しみながら、交流を深めることもあります。自室の掃除や買い物なども自分でして、困ったことがあれば同じ寮内に住むRA・CAに相談するとどんなことも手助けしてくれるので、寮内の学生同士はもちろん、RA・CAとの絆も深くなるそうです。

学業については、モンゴルでは勉強できないことを学べる喜びを感じて日々励み、また、バスケットボールのサークルに夢中で、

2. 構内案内

武蔵野の面影を残す広々とした敷地の



中に、夫婦・家族棟1つを含む7つの宿舎の棟があります。部屋は共用タイプと個室タイプがあり、共用タイプは、皆で使えるダイニングキッチンと6つの個室で1ユニットを構成しています。その他、ジムがあるスポーツプラザ、課外活動共用施設、アメフトなどができるグラウンドも備えています。

トしてもらい、今度は自身がなろうと思ったから」だそうです。CAの北島みづきさんは、「普通の大学生活では外国人と交流する機会がないから」とのことでした。

採用されると研修はありますが、教わるのは例であり、実際はRA・CAの判断で寮生をサポートしていきます。一番大切なのは『悩みを言える環境を作ること』だそうです。

大変なこともたくさんあります。例えば共有キッチンの使い方ひとつにしても人それぞれ違い、些細なことからトラブルになりかねません。そこで共有部屋をまとめるCAは、月に1回、担当している寮生を集めてパーティーを行い、意見を聞きアドバイスをを行うよう心がけています。

これら全てを忙しい学業と並行して行いながらも、お二人ともとても楽しそうにお話されていたのが印象的でした。

今秋には、近隣住民も参加できる『オープンドーム』を検討中とのこと。明るく活き活きと大学生活を送る学生さん達に会いに、ぜひ参加してみたいはいかがでしょうか。

週に1・2回のアルバイトもして、仲間との旅行も楽しんでいます。来日当初は都心で遊ぶことを夢みただけけれど、今ではその思いも消えるほど、寮生活が楽しくて仕方ないそうです。将来は日本でモンゴル語と日本語を使う仕事に就きたいという夢もできました。また、スカイプで故郷の祖母とよく連絡を取り合い、寮生活の様子を知らせるといふ家族思いの一面も笑顔で語ってくれました。

将来、エンクさんがモンゴルと日本の架け橋となり、日本で活躍する日が来るかもしれないと思うと楽しみです。



A棟の内側。吹き抜けのようなデザインの建物です。

スペイン語講座

(前期5月17日～10月25日)

取材日：6月7日(水) 学園西町地域センター

12年ぶりに行われているスペイン語講座取材しました。正式名称は「はじめてのスペイン語」なので、内容は文字通り入門編です。講師であるデイヴィッド・キンテーロ先生が、授業前に受講生と言葉を交わして、徐々に緊張がほぐれたところで、授業が始まりました。先生はメキシコ出身アメリカ育ちなので、スペイン語以外に英語が話せる上に、アメリカで日本語の勉強をしたので、三か国語が操れます。日本に来てから今年で25年、テレビや映画の出演経験もあり、日本人との接し方も心得ているようで、誰もが授業に気楽に参加出来るような雰囲気を作っていました。

今回の授業の内容は3点ありました。1点目は、外国語の入門で最初に教わる、あいさつの言葉です。具体的には、「おはよう」「こんにちは」「ごきげんいかがですか」といった万国共通の定型句でした。会話は何より自分から声を発する、また他人の言葉を良く聞くというのが大事です。前回の復習を兼ねて、先生と受講生、または受講生同士で、繰り返しあいさつの言葉の練習を行いました。

2点目は、これも復習ですが、スペイン語の物の呼び方です。物の呼び方と言っても日本人の感覚からすると不思議に思えるかも知れません。スペイン語には、男性名詞、女性名詞という区分があって、名詞の前に付く冠詞がその区分に合わせて変化します。さらにそれだけでなく、英語と同じように単数形と複数形があり、こちらにもまた違う冠詞が使われます。今回は復習を兼ねて小テストも行いましたが、先生は慣れればすぐ覚えると言っていました。しかし、この4種類の区別を上手く使い分けるのは難しそうでした。



講師のキンテーロ先生

3点目は、今回、新しく取り上げた内容で、スペイン語の色の名前です。色の名前も、一部の色は、修飾する名詞の男性、女性、単数、複数に応じて、名詞と同様に語尾が4種類に変化するので注意が必要です。やはりこちらにも日本語にはないきまりで1つ1つ覚えていく必要があります、また置く位置も違うため、日本人が慣れるには時間がかかりそうです。

それでも受講生はスペインが好きという理由で参加していて、熱心に講座に取り組んでいました。日本人のスペイン語熱に触れた体験でした。

「世界の料理」インドネシア

7月7日(金) 中央公民館実習室

今回大人気で受講希望者がすぐ定員に達したという『世界の料理講座』は、暑い夏にぴったりの甘辛いインドネシア料理。講師のエルネスタさんはスラウェシ島北部出身で、幼稚園の息子の子育てに忙しいママさんです。

講師とボランティアは、7日前のリハーサルから準備を始めました。そこでは、料理の手順、材料や味付けなどを調整します。「お肉は本来の骨付きだと食べにくいのではないかな？甘すぎないかな？辛すぎないかな？油を多く使うのが大丈夫かな？」など、日本で8年も生活しているエルネスタさんは、日本の料理との違いが分かるだけに、事細かく心配していました。こういう場合大抵は、参加者は本場の味が食べたくて受講しているだろうと、当日のレシピは講師の考えたものに近い味付けにしています。

材料の調達にはボランティアと講師で手分けしています。ケチャップマニス（甘口醤油）、パッソ（牛筋入りミートボール）、鮮やかな赤のココパندانシロップなど、あまり出回っていない物は、新大久保の食材店から取り寄せました。



エルネスタさん(中央)とボランティア

そして本番当日、25人の受講生を迎えました。5人の班にボランティアが1人ついて、デザートはインドネシア風フルーツポンチから作っていきます。エルネスタさんが手前から外に



パパイヤの皮を剥いて見せると、日本と逆向きなことに皆驚いていました。甘いポンチにアボカドを入れるのにもびっくりです。

えびせんやチキン、目玉焼きは油で揚げるので、班では揚げ物上手な人が大活躍。「油をたくさん使うのに、インドネシアの人は太ってないのですか？」と聞く受講生に対して、「結婚したら太っていいみたいになっていて、私の母もかなりビッグです。私は（太ってないので）国に帰ると心配されます。『日本で苦労してるのか？』って。」というエルネスタさんの飾らない話が、場を和ませてくれました。

ナシゴレンはこってりした味付けですが、千切りキャベツが山盛り入っていること、スープは体によい緑豆をたっぷり使っていることなどに、皆感心しながら、インドネシア料理を堪能した様子でした。

料理講座が無事終了し、エルネスタさんは「やっとゆっくり眠れます。」と、とても安堵した様子でした。彼女に限らず、講師の方々とボランティアの尽力で、この楽しい講座が成り立っていることを実感した一日でした。

国際こどもクラブ

(5月20日～7月8日 全8回)

取材日: 5月20日(土) 学園西町地域センター

今年第1回目の国際こどもクラブが開催され、小学2～4年生18名が参加しました。子どもたちの通う学校は様々で、最初は緊張しているかなと思いましたが、前半の英語のレッスンは終わり、後半の多文化理解の時間になると、リラックスして楽しむ姿がみられました。

今日の多文化講師は、インドネシアのヘンドリックさん。日本に来て6年目、電気通信大学4年生の男性です。最初は、国や文化の紹介。地図を使いながら、国土は日本の5倍、赤道直下にあるので気温は1年中高く、乾期と雨期があるなどの説明から入りました。大きな特徴は、300もの民族で構成されており、言語も600近くあることだそうです。民族ごとに文化が異なり、国内を旅行していても面白いそうです。続いて、インドネシア語のあいさつや数字が紹介され、伝統的な楽器、踊り、家、衣装などがスクリーン画面で映されました。

国や文化の紹介の後は、子どもたちの遊ぶゲームの時間です。



スプーンにビー玉を乗せ、歩く早さを競ったり、チームごとにリレーをしたりしました。特に男の子たちは夢中で練習をし、その賑やかさと元気には圧倒され、とても初回の講座とは思えないほどでした。スプーン遊びの後は、チョンクラックというゲー

これからの行事予定

- ◎外国人のための幼稚園・保育園説明会 9月30日(土)
- ◎大人のための多文化理解講座 in English
10月14日～28日 土曜日(全3回)
- ◎こだいら市民まつりパレード参加 10月15日(日)
- ◎外国人のための着物で日本文化体験 11月5日(日)
- ◎ISDAK 商店街ツアー 11月11日(土)
- ◎高尾山ハイキング 11月12日(日)
- ◎国際交流フェスティバル 11月26日(日)
- ◎小平市日本語発表会 12月10日(日)

※詳しくはKIFAミニレターおよびHPをご覧ください。

ムで、家と村に分かれた小さな14個の入れ物におはじきを入れ、2人が交互におはじきを動かして自分の家に入ったおはじきの数を争うものですが、少し時間が足りないようでした。

ヘンドリックさんは、小学校や高校で国紹介の経験があり、年齢に合わせて内容を工夫しているとのことでした。また、インドネシアについては、民族の多様性、島が多いこと、宗教もイスラム教を始めとして多様なこと、経済成長とともに人口が増えていること等、もっと日本の皆さんに知ってほしいそうです。インドネシアと言えば、バリ島やボロブドゥール遺跡が有名ですが、多様性に富んだ奥深い国であることが良くわかりました。

次週は別の国の講師が来ます。どんなお話しが聞けるのか楽しみですね。

平成28年度収支決算

(平成28年4月1日～平成29年3月31日まで)

○収入の部

(単位:千円)

科目	決算額
賛助会費収入	1,270,000
補助金収入(市補助金)	13,855,000
寄付金収入	53,900
事業収入	7,525,230
事業委託金	450,000
雑収入(預金利子等)	18,205
前期繰越収支差額	1,766,138
収入合計	24,938,473

○支出の部

(単位:千円)

科目	決算額
事業費	9,146,043
国際理解国際親善の普及事業	5,747,478
地域における友好交流事業	265,008
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	427,531
国際交流情報の収集及び地域への情報提供事業	2,300,567
その他協会目的達成事業	405,459
管理費(管理運営費)	13,493,637
積立金	850,000
支出合計	23,489,680

編集後記

外国のことに興味があるということだけで今回から携わるようになった紙面作りでしたが、実際に特集記事の取材を通して、お互いの国の文化を知り、学び、楽しみや喜びを分かち合うには、コミュニケーションが一番大事だと改めて実感しました。紙面には収まりきれませんでしたが、取材で勉強になる貴重なお話を沢山聞かせてくださった皆様に、改めてお礼申し上げます。(K.M)



発行日 平成29年9月1日
発行 小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ

〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003